

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 80号

2014/1/20 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：上昇傾向から一転、金曜日に大きく下落。来週の動きに注目

①週最高：5月 LDN 市場 £ 1,758 / 3月 NY 市場 \$2,753 (1/16)	先週比 LDN + £ 34 / NY + \$41
②週最低：5月 LDN 市場 £ 1,717 / 3月 NY 市場 \$2,700 (1/17)	先週比 LDN + £ 19 / NY + \$33
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 41 (傾向→) / NY 市場 \$53 (傾向→)	
週内建玉推移：LDN 市場 230,771 枚 (1/10 終了時) ⇒ 236,008 枚 (1/16 終了時)	+5,237 枚
NY 市場 202,943 枚 (1/10 終了時) ⇒ 211,680 枚 (1/16 終了時)	+8,737 枚

【1月13日(月)】ロンドンが続伸＝ニューヨークは横ばい
ロンドン市場のココア先物は続伸。トレーダーらが今週の圧砕高統計待ちとなる中、需要拡大観測が優勢となった。

ロンドン市場の5月きりは、9ポンド(0.5%)高の1733ポンドで終了。
一方、ニューヨーク市場の3月きりは、変わらずの2712ドルで引けた。需要に関する指標となる欧州の圧砕高統計は、15日の発表予定。北米の圧砕高統計は、16日の発表予定。

【1月14日(火)】両市場とも上昇＝圧砕高統計控え
両市場とも上昇した。欧州の圧砕高統計の発表を15日、北米を16日に控えていることも支援材料となった。チョコレートメーカーらは予想を上回る力強い需要を受け原料調達を急いでいる。
ニューヨーク市場の3月きりは40ドル(1.5%)高の2752ドルで引けた。ロンドン市場の5月きりは、15ポンド(0.9%)高の1748ポンドで終了した。

【1月15日(水)】ロンドンが続伸＝圧砕高統計受け
ロンドン市場は続伸。5月きりは3ポンド(0.2%)高の1751ポンドで終了した。欧州ココア協会(ECA)によれば、2013年第4四半期の欧州のカカオ豆圧砕高は6.2%増加し、事前予想の約5%増を上回った。
一方、ニューヨーク市場は反落。3月きりは4ドル(0.1%)安の2748ドルで引けた。いったん

は上昇したものの、ポンドが対ドルで下落したことに圧迫された。

【1月16日（木）】ロンドン、続伸＝NYは反発

ロンドン市場は続伸。5月きりは7ポンド（0.4%）高の1758ポンドで終了した。15日発表された欧州のカカオ豆圧砕高が堅調だったことが好感された。トレーダーらは、米東部時間午後4時に予定されている2013年第4四半期の北米のカカオ豆圧砕高発表待ちとなっている。予想レンジは5～7.4%増。ニューヨーク市場は反発し、3月きりは5ドル（0.2%）高の2753ドルで引けた。

【1月17日（金）】両市場とも反落

ロンドン市場は大幅反落。5月きりは41ポンド（2.3%）安の1717ポンドで引けた。10～12月期の北米の圧砕伸び率が4.4%と、予想の5～8%を下回り、需要の弱さが示されたことから、一時、1705ポンドまで下落した。

ABNアムロ銀行のジャスティン・グランディソン氏は「予想に全く届かなかったことへの反射反応だ。数字は高いとはいえ、期待されていた水準に届かなかったというのが事実だ」と指摘した。

欧州ココア協会が今週発表した10～12月期の圧砕量は6.2%増と、ほぼ2年前の水準に回復した。アジアのココア協会は21日に四半期圧砕統計を公表する見通し。グランディソン氏は「市場は増加を見込んでいる」と語った。

ニューヨーク市場も反落。3月きりは53ドル（1.9%）安の2700ドルで引けた。ドル安ポンド高は材料視されなかった。ディーラーらによると、コートジボワールでの大量の港湾入荷に圧迫された。

2、欧州の第4四半期のカカオ豆の圧砕高は6.2%上昇(1/15)

ブリュッセルにある欧州ココア協会(ECA)によると、欧州の第4四半期のカカオ豆の圧砕高は昨年と比較し6.2%上昇し348,406トンとなり2年前の水準まで回復した。これは2009年の第4四半期に到達した351,316トンという記録に近いものである。6.2%の上昇は、トレーダーの予測した5%という数字を上回っている。

3、北米カカオ豆圧砕高、13年第4四半期は前年比4.37%増＝予想下回る(1/17)

全米菓子協会(NCA)が16日公表した統計によると、2013年第4四半期の北米カカオ豆圧砕高は12万5332トンとなり、前年同期(12万0085トン)比4.37%増加した。ただ、予想増加幅(5～7.4%)を若干下回った。

圧砕高は、NCAがカナダとメキシコの圧砕統計を初めて追加した、少なくとも2009年以来の高水準。チョコレートの需要増加を反映した。圧砕高が前年同期比で増加したのは5四半期連続。

4、ガーナのカカオ豆購入、2日時点で前年比30%増＝監督機関(1/17)

ガーナのカカオ豆買い付け量は、メインクローブ期が開始した昨年10月18日から今年1月2日までの11週間に58万5803トンとなり、前年同期(44万9264トン)比30%増加した。同国のカカオ豆監督機関であるココア委員会(Cocobod)の統計で16日、分かった。

ロイター通信が入手した統計によれば、1月2日までの1週間の買い付け量は2万7050トンで、前

週の3万1539トンを下回った。ガーナは、コートジボワールに次いで世界2位のカカオ豆生産国。2013～14年度の買い付け量は約83万トンが見込まれている。

5、欧州市場：バターレシオは堅調、カカオ豆の先物相場の高値により取引の動き鈍る(1/18)

トレーダーによるとココアバターの需要増加の兆しの中、欧州市場におけるココアバターレシオは堅調に推移。2014年1～3月期のレシオは先週の2.4から2.41に上昇。ココアバターはチョコレート原材料のカギとなっているが、あるトレーダーは「ココアバターの需要改善の兆しがある。欧州の南部ではチョコレート需要が落ち込んだものの、ドイツでのチョコレートの売上好調など、欧州のいくつかの国におけるクリスマス期のチョコレート商品の販売の影響が大きかった。」という。また、「我々は今週のカカオ豆の圧砕統計を楽観視している。」という。

スイスチョコレートの製造者の Barry Callebaut 社によると、グルメチョコレートの好調な売上により、チョコレートの需要が上昇している様子。ドイツではカカオ豆の圧砕高が7.8%減少し101,029トンとなったが、欧州の2013年第4四半期の圧砕高は前年対比で6.2%上昇し、348,406トンになった。

コートジボワールの圧砕高は、政府の新たなカカオ産業全体の集荷、買付け制度の影響から急激に減少し、さらに停止する恐れもあるという。この制度によりカカオ製品の生産機能が一部、欧州へ移行される可能性がある。ドイツのカカオ製品は輸出においても好調であり、ドイツで圧砕したカカオ豆の全てが国内消費とはなっていない。今週も依然として世界的にカカオ製品が不足しており、先物市場でのカカオ豆の高値が取引の動きを鈍らせている。ドイツのコートジボワール産カカオ豆の1月渡しと3月渡しのロンドン先物市場価格に対するプレミアムはおおよそトン当たり70ポンドでその差は今週も変わらず。

トレーダーは「ココア先物は2013年の第3四半期以来の上昇基調であり、欧州において取引がより高値で行われるだろう。」という。

6、カメルーン産カカオ豆の輸出量が105,867トンに到達(1/18)

カメルーンは8月に2013/2014シーズンの収穫が始まり、12月までに105,867トンのカカオ豆を輸出した。これは昨年同時期の125,880トンと比較すると減少。(National Cocoa and Coffee Board=NCCBによる。)NCCBは、世界第4位のカカオ豆の生産国であるカメルーンの12月の出荷は25,848トンで、11月の31,848トン、昨年の12月の41,136を下回っていると発表。また

NCCBによると、前月に25社あった出荷業者が21社になった。

Telcar Cocoa Ltdは出荷量のトップに位置するが、11月の出荷量8,828トンからやや減少し8,478トンになった。2位のOlam Camは前月の5,732トンから上昇し6,212トンとなった。3位のCameroon Marketing Commoditiesは前月の4,865トンから減少し2,709トンとなった。

カメルーン政府は16日にFAPAM社というカカオ磨砕工場を新たに設立することを発表し、今後、16,000トン/年のカカオ豆からバターとパウダーを同国内で生産する。「同会社の主な目的は、バターやパウダーをカメルーンの国民に安価で提供することである。」と中小企業振興政策部の代表であるLaurent Serge Etoundi Ngoa氏はいふ。また、「我々はCEMAC(中部アフリカ経済通貨共同体)のメンバーである6か国全てに対して市場を広げていくこと計画している」という。

カメルーン的首都、ヤウンデの南55kmのMbalmayoに設立されるこの工場は9.54百万米ドル(約10億円相当)の工場でカメルーン国内では3社目の磨砕工場となる。

カメルーンのカカオ豆のシーズンは 8 月から翌年の 7 月であり、メインクroppは 10 月～1, 2 月でライトクroppは 4, 3 月～7 月となる。カカオ豆生産量は 2011/12 期にペストや病気により 220,000 トンに減少したが、その前の 2010/11 期には 240,000 トンであった。2012/13 期の生産高はわずかに上昇し 228,948 トンとなり、NCCB は 2013/14 期の生産高は 235,000 トンあたりまで上昇すると予測している。

7、アジア市場：ココアバターレシオは下落(1/17)

ココアバターの需要の指標となるココアバターレシオは、今週のロンドン先物市場の上昇を受け下落。アジア・ココア組合は来週、2013 年の第 4 四半期のカカオの圧砕統計を発表する予定である。「第 4 四半期はマレーシアでの圧砕高は乏しかったが、インドネシアにおいて圧砕高が上昇している為、全体としては相殺されるだろう」とディーラーはいう。

また、シンガポールのディーラーは「マレーシアは残留農薬の件でエクアドルからのカカオ豆に問題を抱えている。過去数年、マレーシアにとってエクアドルは重要なサプライヤー。」という。マレーシア・ココア委員会によると、マレーシアにおける 2013 年の第 4 四半期の磨砕数量は昨年比 9%減少し 70,064 トンであったと発表された。

2013 年のマレーシアの圧砕高の合計は 4.6%減少し 285,608 トンとなっており、これは昨年に磨砕業者が在庫の増加に伴い、ココアパウダーを何とか販売しようとしていたことを示している。

シンガポールのディーラーは「この下落については驚いている。ただ、いくつかの磨砕業者はマレーシア税関によるカカオ豆の残留農薬検査基準により、カカオ豆の輸入が難しいと感じている。その為、カカオ豆の一部は港に置かれたままになっているものもあり、また、ココアパウダーの在庫も依然として多い。」という。

カカオ豆は磨砕された後、チョコレートに口どけを加えるためのココアバターとケーキ・ビスケット・飲み物に使用されるパウダーへとなる。ココアバターレシオは、先々にバレンタイン等のいくつかのイベントが待っているに関わらず、先週の 2.3～2.4 から減少し 2.27 に落ち着いた。

パウダー価格は 1,900 ポンド～2,200 米ドル/トンと少々変動した。ココアバターの価格は、ロンドン先物市場とニューヨーク先物市場の価格にバターレシオを掛けて算出されるが、レシオと先物価格は通常は反比例している。シンガポールのアナリストは「欧州と北アメリカの好調な圧砕高を鑑み、ニューヨーク先物価格の上昇基調は維持されるだろう。」という。

ココアマーケットでは、カカオへの需要についての手がかりとして、アジアにおける圧砕高に注目している。アジア全体のカカオ豆の圧砕高は、インドネシアでの使用量増加の影響で第 3 四半期は 12%上昇し 161,097 トンであった。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp